

22. 9. 19

現論

けんろん



情報の精度を下げるもの

インターネットがこれだけ

普及した社会に生きていると、どこから何がふってくるか、ほんと、わからない。たとえば、こんなニュース。

来月4月に開校する山形県東根市の「さくらんぼ小学校」と同名のアタルトサイトが存在することが発覚した。当初「校名の変更は考えてない」としていた市だったが、市民から「学校のイメージが悪くなる」「児童に悪影響がある」などの声が上がリ、またアタルトサイトの利用者側からも「自分たちの楽しみを邪魔しない」「などのメールが相次いだため、9月9日、市長は記者会見を開いて校名を変更する考えを明らかにした。

あるんですね、こういうことが。校歌も校章もすでに決まっていたというから、災難といえは災難。市長は「ネット社会に対する認識が足りなかつた」と反省している。な

と述べたという。以上、この文章を、私は9月9日と10日に報道された複数の新聞記事から作成した。元ネタはすべてネット上（新聞社の記事配信サイト）にアップされている記事である。

新聞社は記事の裏取りと校正に十分なコストをかけている。したがって事実関係に大きな間違いはないと思う。が、記事を加える過程で齋藤美奈子という個人の手が加わっている以上、百パーセント正しいともいえない。要約の過程で私が誤記や誤認をしてたり重要な事実を見落として

いる可能性もあるからだ。ネットの普及は情報の受信と発信をおそろしく容易にした。パソコンで検索すれば、どんな情報でもたちどころに手に入り、それをちょっと加

工してアロクやツイッターで流せば、ただちに情報の発信者となる。しかし、その手軽さで引き換えに、私たちは大きなリスクと責任を負うことにもなった。

と、この本題はこの先なのだ。右の話はここまで信用だ。さくらんぼ小の件を聞いて

56年新潟市生まれ。成城大卒。児童書などの編集者を経て94年に「妊娠小説」で文芸評論家としてデビュー。「文章読本 江」で第1回小林秀雄賞。ほかの著書に「紅一点論」「文壇アイドル論」「ふたたび、時事ネタ」など。

ネット社会のリスクと責任

誤情報だったらどうだろう。ネット上の情報は玉石混交。ウィキペディアでさえ、うのみにするのは危険なのだ。

て、あなたはどっと思っただろう。そんな変な校名にするからだよと思わなかった？

追加情報がある。とくに「存じもしないけれど、東根市はさくらんぼ生産量日本一で、さくらんぼの人気品種「佐藤錦」発祥の地なのだそうだ。市内にあるJRの駅名も「さくらんぼ東根駅」。市民マラソン大会などの行事にもさくらんぼの名を冠することが多く、さくらんぼ小という校名も市民からの公募で一番多かったことから決まったという。そう聞くと「ならば、さくらんぼ小もあ

りうるだろう。だからこそ相手の知的所有権には十分な配慮が要る。さくらんぼ小の場合はたまたま手がアタルト系だったことから校名変更に至ったが、仮に手が菓子や果物を研究するサークルだったらどうだったか。サイトの性質にかかわらず、やっぱり検討や話し合いが必要だったのではないのか。

問題のサイトには9月9日付で「正しくはアタルトサイトではございません。私どもは『同人18禁美少女ゲーム』など一応信用するとしても、それを加工してだれかがアロクで流し、それをまただれかが引用してコメントを加え...とや

ったいくうちに情報の精度は確実に下がる。たとえば東根市とさくらんぼの関係を出すか隠すかで、印象はちがってくるのである。

もつひとは著作権の問題である。情報の受信発信が容易になったということは、著作権に抵触しそうな場面も増えていることを意味する。文章、写真、イラスト、音

源、ネット上に存在する「ネタ」をコピーするのは一瞬である。アイデアを拝借するのも簡単だ。偶然の一致も当然ありうるだろう。だからこそ

大きなおめこに発展したかったのは元祖さくらんぼ小の大人の対応によるところも大きい。だれにとっても人ごとはないケース。もって他山の石とすべきだろう。

「コピーは一瞬」

齋藤 美奈子氏

（文芸評論家）